

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	大國 康夫	法人・ 事業所 の特徴	協同福祉会が掲げる「10の基本ケア」を考え方の柱とし、生活リハビリと落ち着いた過ごしやすい環境づくりを提供することで、状態が変わっても住み慣れた地域・在宅で生活し続ける事を支援しています。
事業所名	あすならホーム山の辺 多機能型ケアホーム	管理者	瀬野 真弓		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	2人	2人	10人	人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様との会話を楽しみながら知りえた情報は記録に残し 職員全体で共有しながらケアの統一化を図る。	利用者様と会話の中から行きたいところや食べたい物が聞きだせお出かけ企画として でかけることが出来た。	要介護5の方と家族様も一緒に1泊2日の東京旅行に出かけられた。ケアを優先して 会話の時間がなかなか取れない時がある。	認知症ケアの学習をしチームとして1人1人のニーズに沿ったケアを実施していく。お出かけや食事などの企画を増やす取り組みをする。
B. 事業所のしつらえ・環境	畑や木が少ない為 花などを植えて 外からも入りやすい空間を作ります。	施設前に畑を作り、草花を植えたりしたが、常に気にかけて植え替えなどは出来なかった。	春は花など咲いていたが季節が変わっていくのに畑がついて行けていない。	あすならホーム山の辺の畑で季節感のある植物や野菜を植える。利用者様に教わりながら。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方にサロンを提供しホームに来ていただく習慣を付けて頂く。	地域向けの学習会は年間4回行えたが地域の方への広報が行えていない。サロンに来て下さる方は増えている。	地域の独居の方の把握が不十分。	つながり連絡員制度を見直し地域の方の困りごとを聞ける関係性を作る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域包括さんと協力し 地域の独居の方などの情報を共有しながらサロン活動や地域イベントに参加する。	民生委員さんと地域の独居の方の訪問を実施したが支えるまでの関係性は作れていない。イベントには参加できる体制を整えて行っている。	病院からの利用受入れが多いため利用前の自宅訪問や、状態悪化前の情報が拾いにくい。以前の生活を聞き取る事が難しい。	地域に出向きお元気な時からの関りを作り「何かあればあすならへ」と思って頂くよう取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	ケアラーの会に現場の職員を交代で参加して頂く。ケアの取り組みやお看取りの事例などを報告していく。	2か月に1回の開催で地域の情報などを共有しています。ケアの取り組みなどは報告させて頂いてますが職員を交代での参加はできていない。	要介護5の方の東京家族旅行が実現できたことを写真付きで報告。写真付きだとイメージがわかりやすい。	運営推進会議を実施し、地域の困り事を聞き取っていく。
F. 事業所の防災・災害対策	年間2回の防災訓練の実施。夜間想定や水害などの想定の実施。地域の方にも参加して頂く。	火災避難訓練、災害避難訓練を実施した。地域の方に参加して頂く事は出来ない	避難訓練をすることの公開がないのでわからない。	BCPの練り直しから有事の際にも地域の方が安心できる事業所になるよう、新入職員を含めた避難訓練を行なう。地域にも開催を発信していく。

